

【人口 10 万人対の歯科診療所数 (都市部への偏在)】

日本の各都道府県、および 15 大都市・中核市の人口 10 万人対の歯科医師数については、

◆人口 10 万人対の歯科診療所数

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BF%CD%B8%FD10%CB%FC%BF%CD%C2%D0%A4%CE%BB%F5%B2%CA%BF%C7%CE%C5%BD%EA%BF%F4>

で示したように、都道府県による偏在が認められます。

さらに、各都道府県の中でも偏在は認められます。

同じデータから、都道府県の平均と、15 大都市・中核市の平均を並べて見てみましょう。

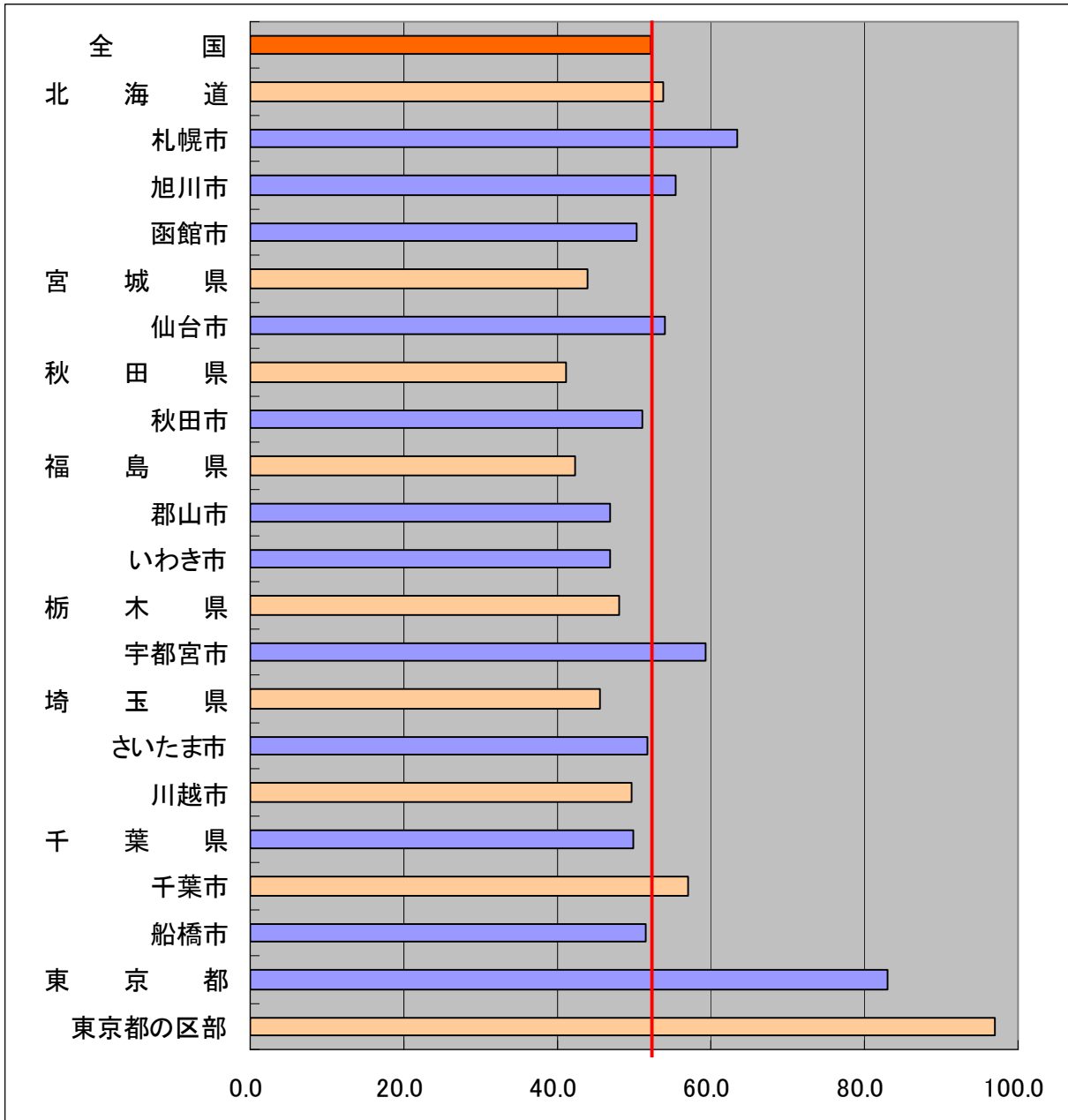
歯科診療所

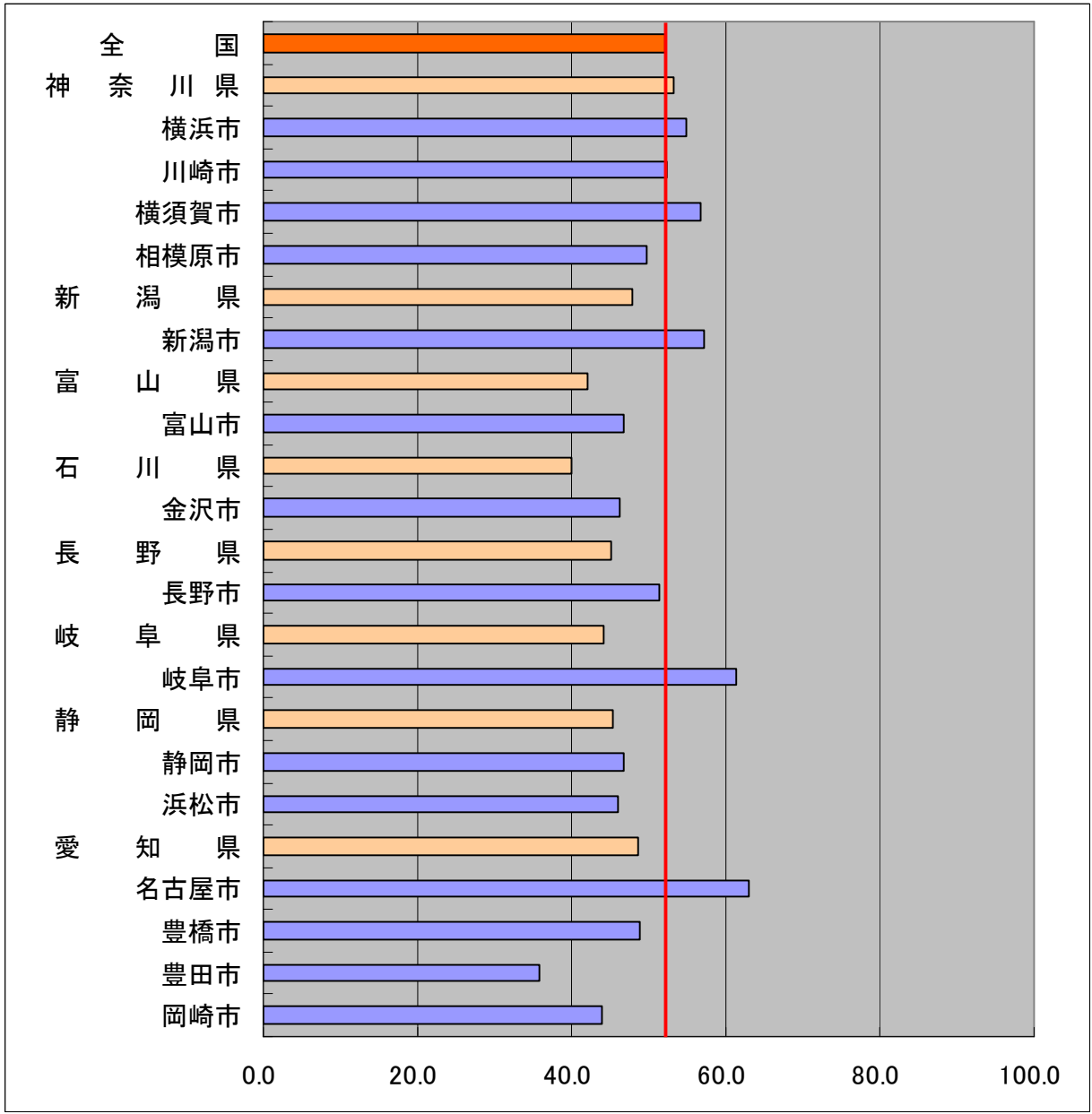
平成 17(2005)年 10 月 1 日現在
人口 10 万対施設数

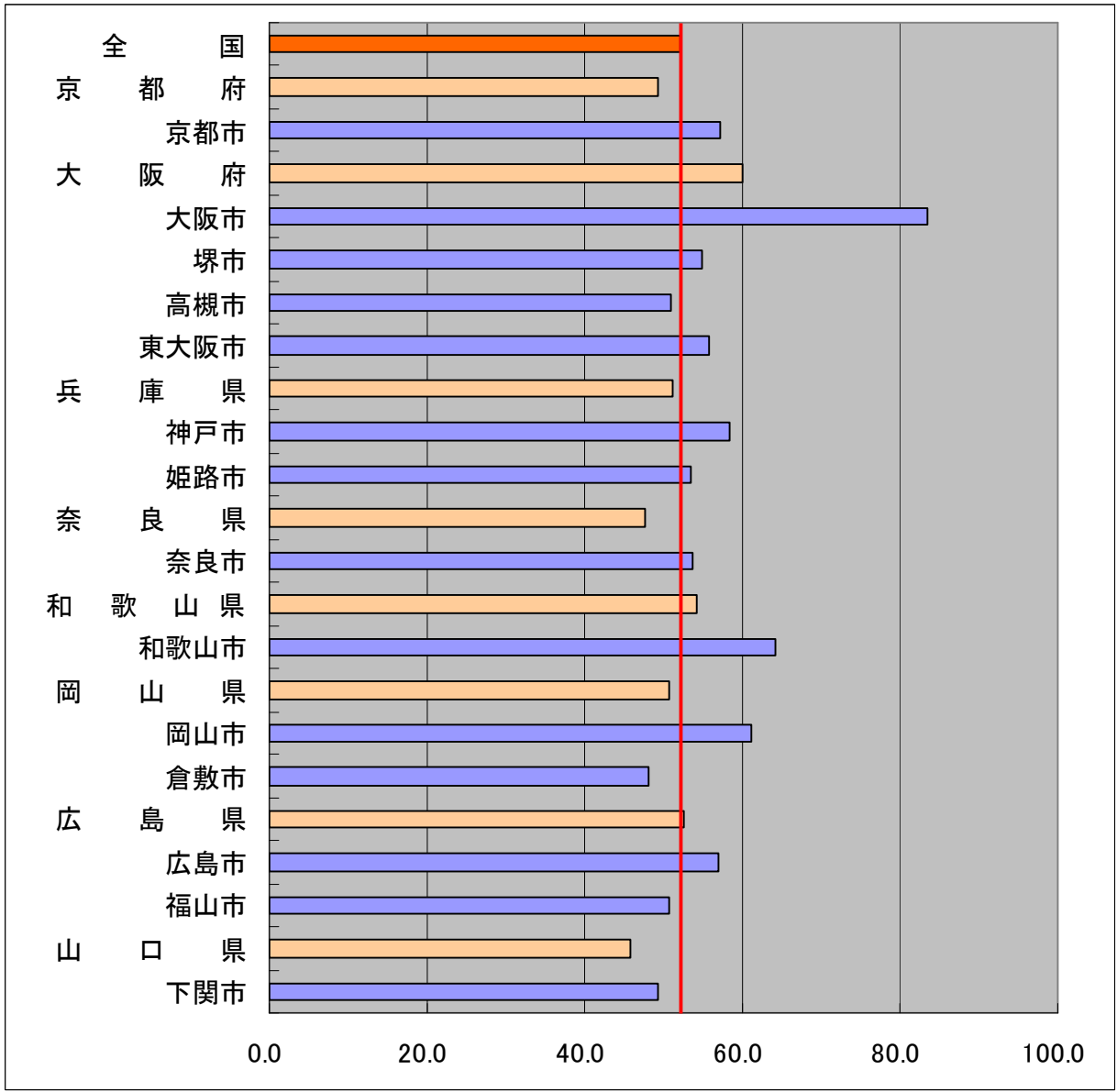
全 国	52.2
北 海 道	53.8
札幌市	63.5
旭川市	55.5
函館市	50.3
宮 城 県	43.8
仙台市	54.0
秋 田 県	41.2
秋田市	51.0
福 島 県	42.4
郡山市	46.9
いわき市	46.8
栃 木 県	48.0
宇都宮市	59.4
埼 玉 県	45.5
さいたま市	51.8
川越市	49.7
千 葉 県	50.0
千葉市	57.0
船橋市	51.4
東 京 都	83.0
東京都の区部	97.1
神 奈 川 県	53.3
横浜市	54.8
川崎市	52.3
横須賀市	56.8
相模原市	49.8
新 潟 県	47.9
新潟市	57.2
富 山 県	42.0
富山市	46.8
石 川 県	39.9
金沢市	46.2
長 野 県	45.1
長野市	51.5
岐 阜 県	44.1
岐阜市	61.5

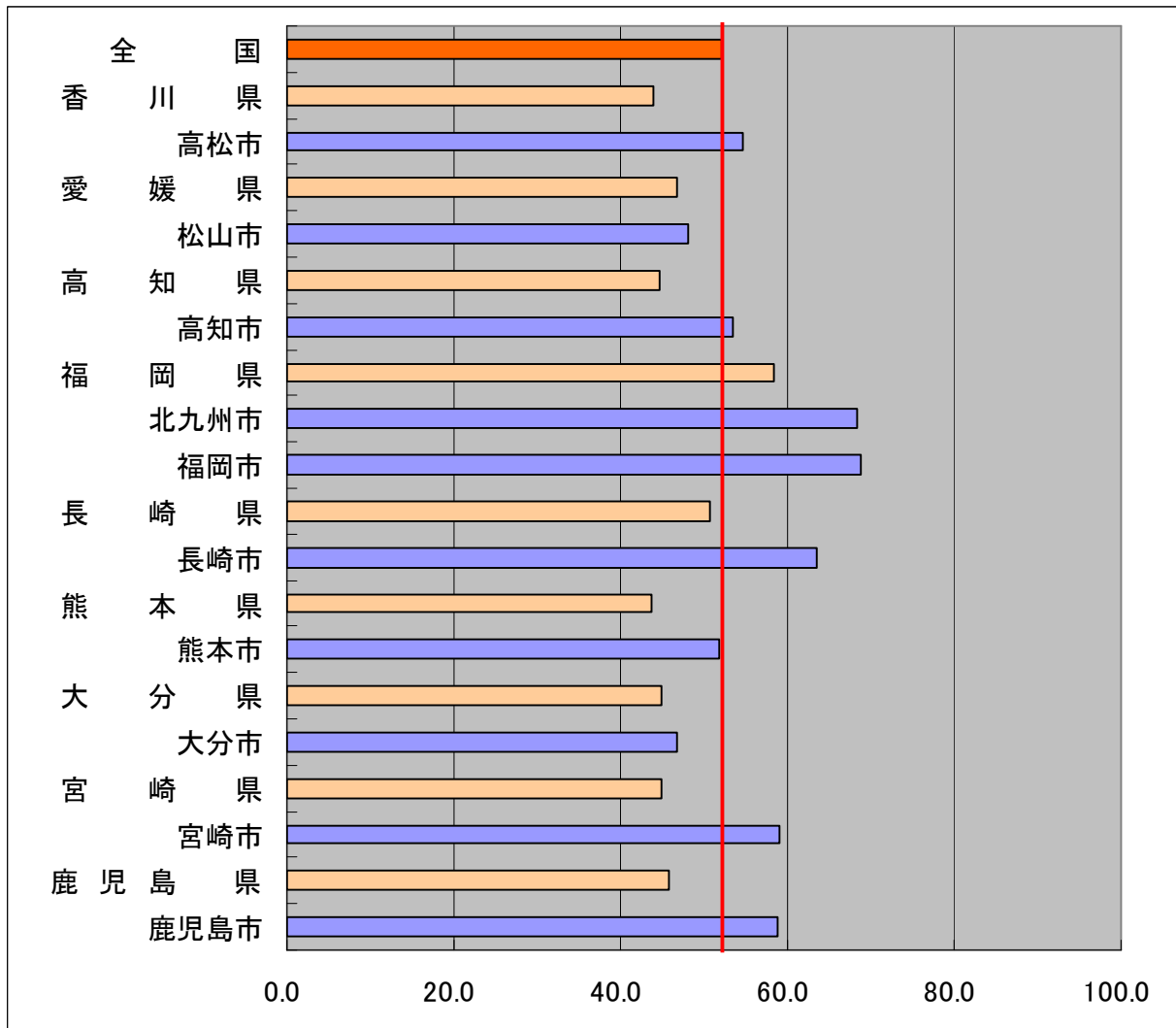
静岡県	45.4
静岡市	46.8
浜松市	46.0
愛知県	48.7
名古屋市	63.1
豊橋市	48.9
豊田市	35.7
岡崎市	44.0
京都府	49.3
京都市	57.3
大阪府	60.1
大阪市	83.5
堺市	54.8
高槻市	50.9
東大阪市	55.7
兵庫県	51.2
神戸市	58.3
姫路市	53.5
奈良県	47.6
奈良市	53.8
和歌山県	54.1
和歌山市	64.2
岡山県	50.7
岡山市	61.1
倉敷市	48.1
広島県	52.5
広島市	56.9
福山市	50.7
山口県	45.7
下関市	49.2
香川県	43.9
高松市	54.7
愛媛県	46.7
松山市	48.2
高知県	44.6
高知市	53.4
福岡県	58.4
北九州市	68.4
福岡市	68.9
長崎県	50.6
長崎市	63.5
熊本県	43.8
熊本市	51.8
大分県	44.9
大分市	46.7
宮崎県	44.8
宮崎市	59.0
鹿児島県	45.8
鹿児島市	58.9

上のデータをグラフにしてみます。









ほぼ、どこの都道府県においても、その都道府県の平均よりも 15 大都市・中核市の平均のほうが上回っています。

都道府県間での歯科診療所の偏在ばかりでなく、各都道府県内での偏在もあるようです。都道府県の平均が、全国の平均よりも低いのに、県庁所在地の平均が全国平均を大きく上回っている都市もあります。歯科診療所の一極集中傾向があるといえます。

(いろいろなところで指標として「平均値」が使われますが、平均値からは見ることの出来ない現実もあるので、データを見るときには注意が必要です。)

歯科医師が競争の激しい大都市を選択して開業する傾向の理由はどこにあるのでしょうか。大都市には自費を多く期待できることがその理由なのでしょうか。

その結果として、

<http://www.minnanoshika.net/up/merumaga/yuuhatsugraph.gif>

で示すように、歯科医師数の多い都道府県で、一人当たり歯科医療費が高くなるということも起きています。

大都市と地方都市・田舎での歯科診療所を取り巻く環境の違いが、歯科医療政策、方針における様々な意見の相違に直結していることは間違いありません。

チュー